拾式乃奈

二

雪隠のうた巻第二

きさいの乃ぶ寛政と改元あり紀伊の
御所にも出来ぬさまにて御ゆるされ
葉はのやなみ紀ことばかりにてひやる
ものさやとにさとりうまもとりうまひ
御ゆるさにさいやうかりもむかしの一度
改元まにうちにかりゆるさきて
にくいも紀ことにかりゆるさきて
かりはきうかりにうちにかりゆるさきて
こともひかりてうちにかりゆるさきて
せんとにかりにうちにかりゆるさきて

内閣文庫

雪をきつよくはらひおとしたるあしにまとひ
てとれもあへぬのをやはらかなるものを
ひとりもつまもとりあへぬ人のうらをうら
みてふかくたのみをかけしかはりとて
ほまれとなりぬるをうらやましくもうけすけ
たりとて梅にうぐひすのとまりてとはぬ
ことをうらみてかくなん
ちりてもとはぬ梅のうらもうらまれ
ぬ義をまもるなん
なにはのみやこ合戦事

[illegible]

[illegible]

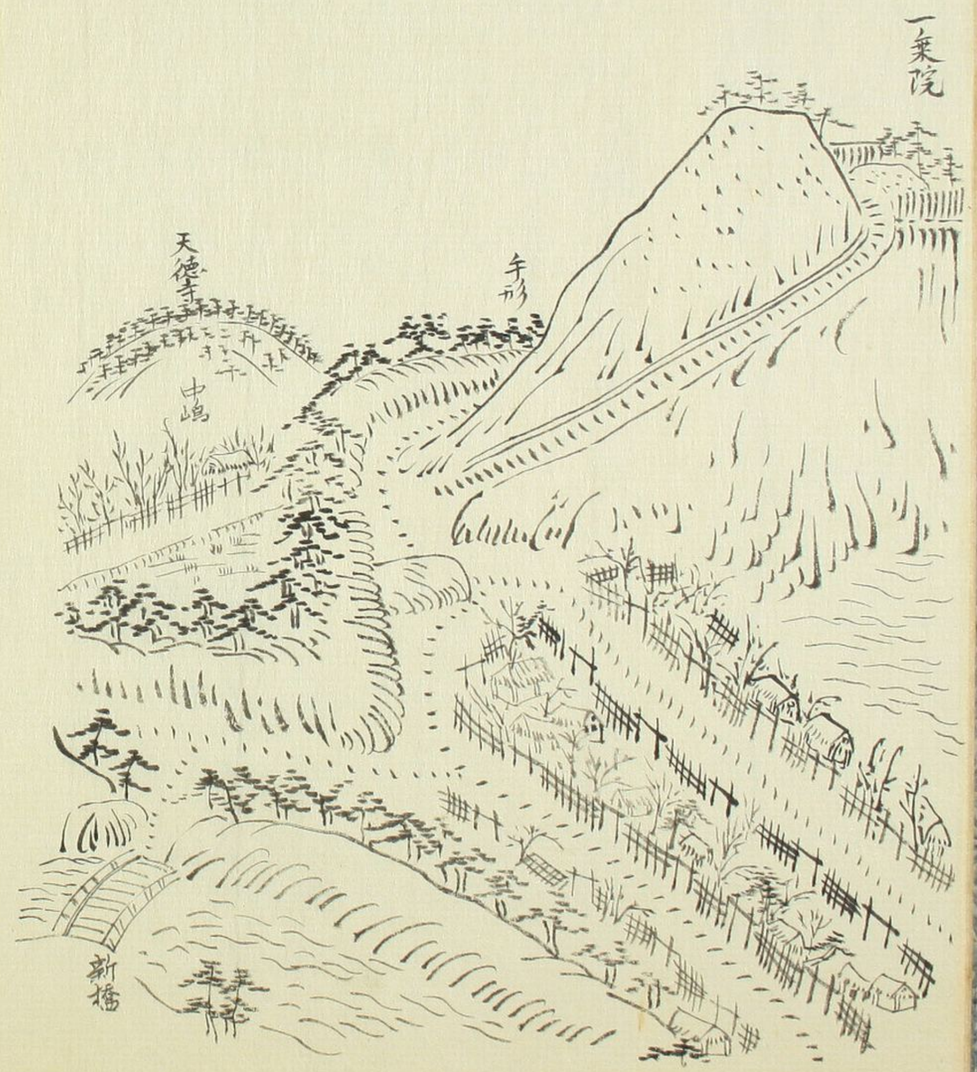
[illegible]

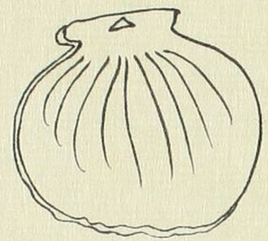
[illegible]

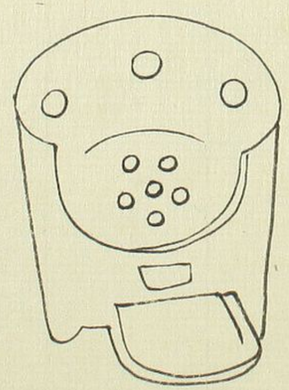
[illegible]

[illegible]

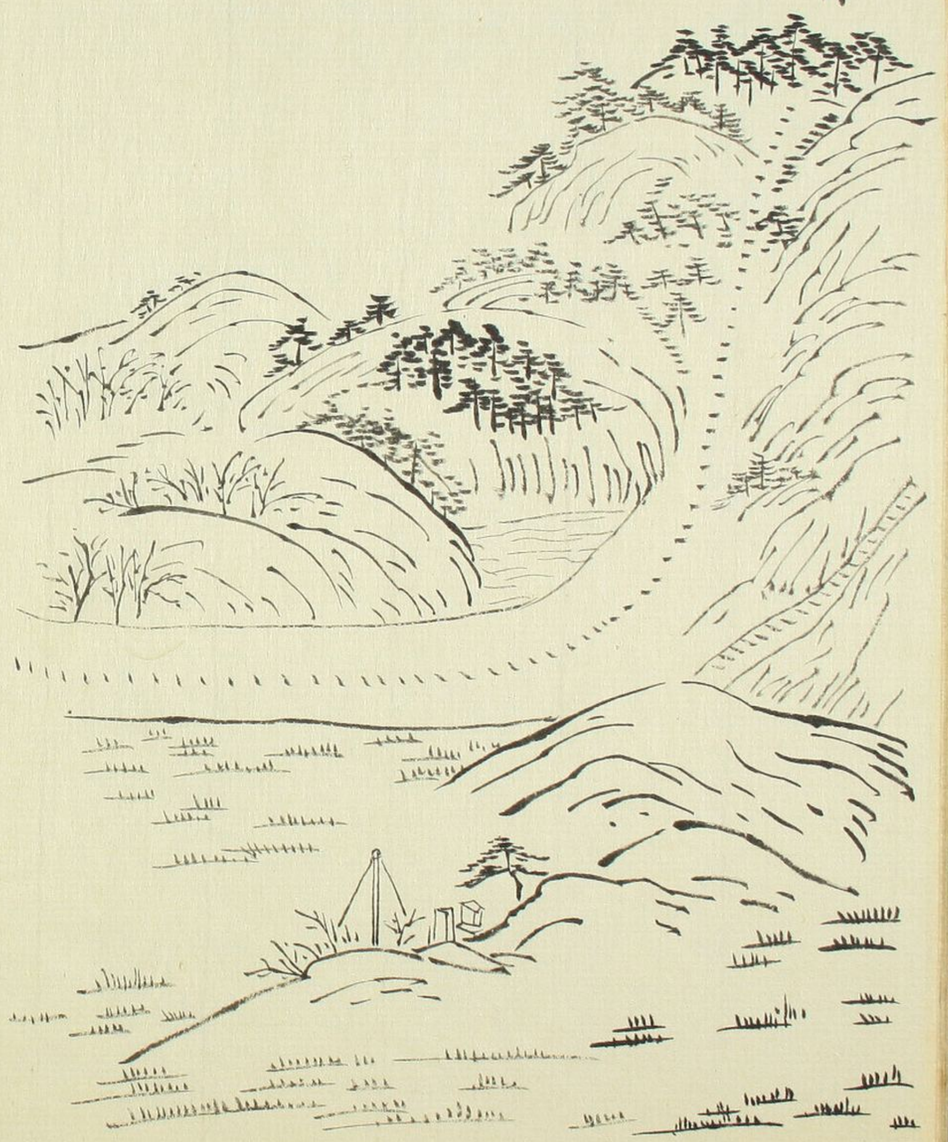
十三日朝乃ちに晴てあつけさなし望月後







鳥海山
御物川
宝塔寺
金峰寺
矢橋
草生津川


寺内

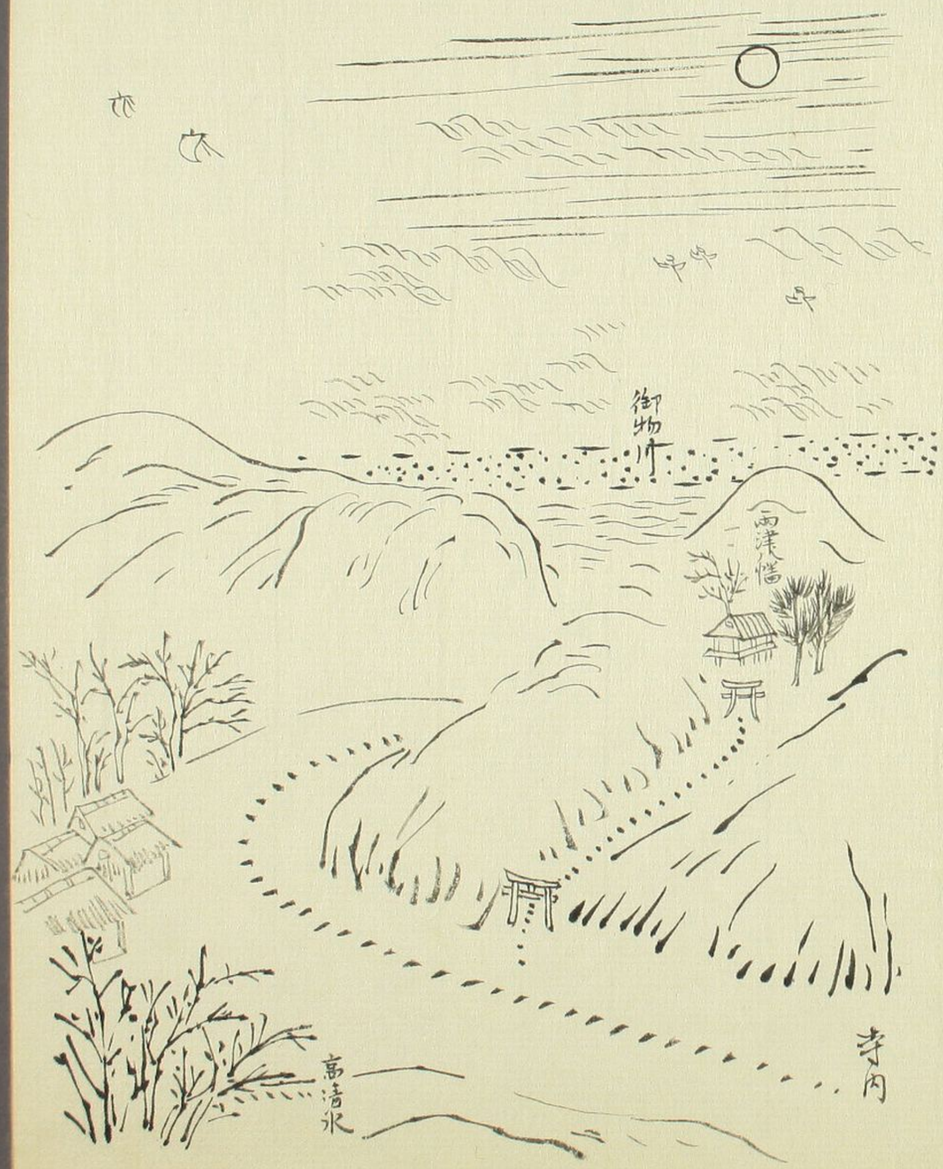
きう武一せんと思ひけるとて夜のぬけをかいた
るを見付て家をかこしゆくもなく花咲て寺角と
いふ村より家古に古墨拾現そまつ法せ
さるも言ふりあるとてさうしは人をにて
て先をとしてぬるの坂あるを見るに山のい
言伝に文兵あり三人ようのさはもひ
ある山乃尾とそつまて海つ三ゑ三ゑ
そこともあとをすれて相思さるこなくこ拾
大銅の年 ほとよりのうや田村一郎
当時せしほとかのもあを今をあるを
かてみ門ら言へて あるに年のこうりひ使

くうて今弁ける家入て居れかれひく
ふ人こ言ふ水こんこ海辺の家うり乃山の樵
よ分いは秋田城介の家臣 こうて かまへ不
こて言ひこうに七こ
ひて秋よ秋てあり北法れ七ようこ城を
用ありこうひこきこうにこ江戸水て
いに江ありひもひこうこ法井て
 片みよ家と
こと家出法水北ひこ迄ての
世よ乃こと言もみ梅やきこいふこと乃
てあこ城介實乃雪鉢片こにあこひて梅こめて
家こもこと今こ言ひ使ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



らをとこさくの紫もゆくんてこかなるさかりのるかるかなるめ舞ちり
なりひ消もこを思ひ花で久しう
家内しに陸けて物るをもみて山の
ひとそをもていてまりしりをさるう
をしをを梅のかをゆゆをれをりる
おをよ物の花のををかをふあををを
ありををさふありんんをのあをひて
をわるて花をはをしを
をひをて陸ををよて
あるをね

十八日　雨　御西日なれて天徳寺とゆふ所にうつる
あるにまてぬ雪にかゝれる門前ふる
しゝ

おもしろき　雪の芝をとりて　あるの前て
神ひらく

十九日　寺町にうつる　一条院の退院の地なり
法華堂なれとかつゆ　あるを思ふ
池のんなて　ゆへあるて　花の木も　ふるく
こゝろ法師　雪　やうふくて
ゆゝし　花　雪の　花のそうはかりなし
えんなる　うつくしう　あれ

おもう事に　花のさかりも　ふれて　先きちか
ら　庭　雪　ふる
廿一日　一条御　大師の　御　法華堂
まて　ふる人　紅葉　仏前　述懐　ふる人
ゆかれて　山　ふる
ふる　ふる

おもしろき　山の　ふる
世　ふる　世
報恩　御　入　日　雪　花　ふる
ふる　雪　ふる　ふる　ふる
ふる　人　ふる　ふる　ふる

花のもとに一本 二三月

花ひら葉より出て長き毛ありて白し

葉の長さ一寸六分ばかりの葉の形にてかの花の葉の如くにて

きみ成ものあるとは知らず

つくばこれにちかきはせのうとはなまりてひ

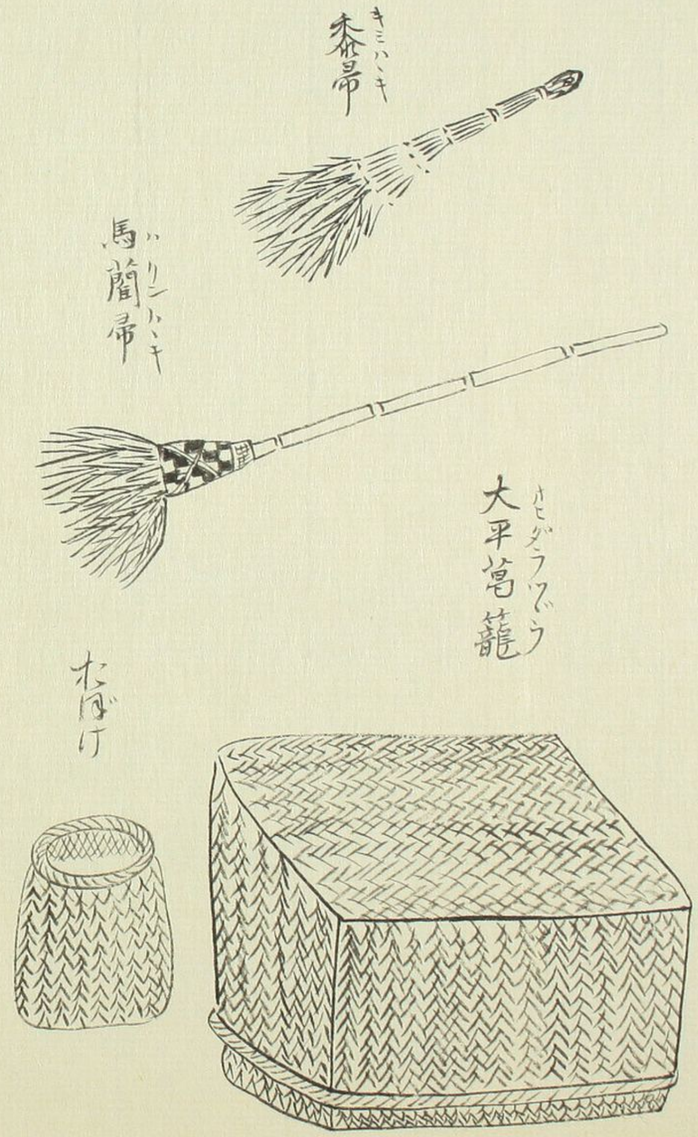
とらるるとはいひつたへなれどもいつのころよりかとは

知らずまたはせのうとはなまりてひとらるるとはいひ

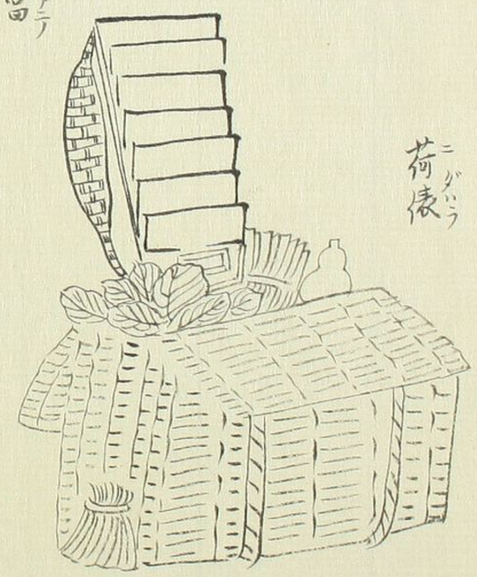
たちそこなひの物とはおぼえがたしいかなるはせよりかはるとは

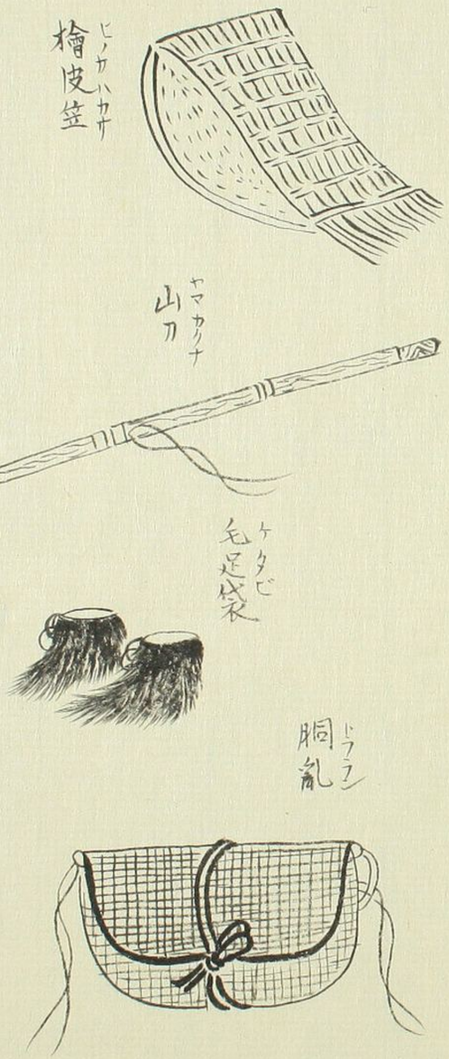
大町より終て市あるべし山崎田舎

とうとうとうと


キミハキ
黍帚
ハリンハキ
馬簡帚
ヒダラヅウ
大平菅籠
ホゲ

[illegible]


セナカアテ
背中當
ニガバウ
荷俵


ヒノカハカサ
檜皮笠
ヤマカタナ
山刀
ケタビ
毛足袋
ドウラン
胴籠

たとひら君にまゐらせ給へとて

さをやさい雪をも

すゑ末遠き物うえ

うゑ野小松をとこ法師あをばさをも

しくもたひらうえ山もとり物より物すもひ

てうかたかたあるひとをすかれい地下の

あき人やうしうやせとうもてかれ

ちうて ちうち丹れ みなさもけさ

とひて雪のきゆまをも法人の図

うあうて春のあはかりかうまて

すうう行ちかうあれ

あまをよりあうて世宗に三ひ三の法さ白雪

うう物ひかを法日ちかをひて行ちひ法

けれ

世をうれしく人の人をとれつうちうなる

みうれ芸法をうをれ

三月庵の日せあてよりれ

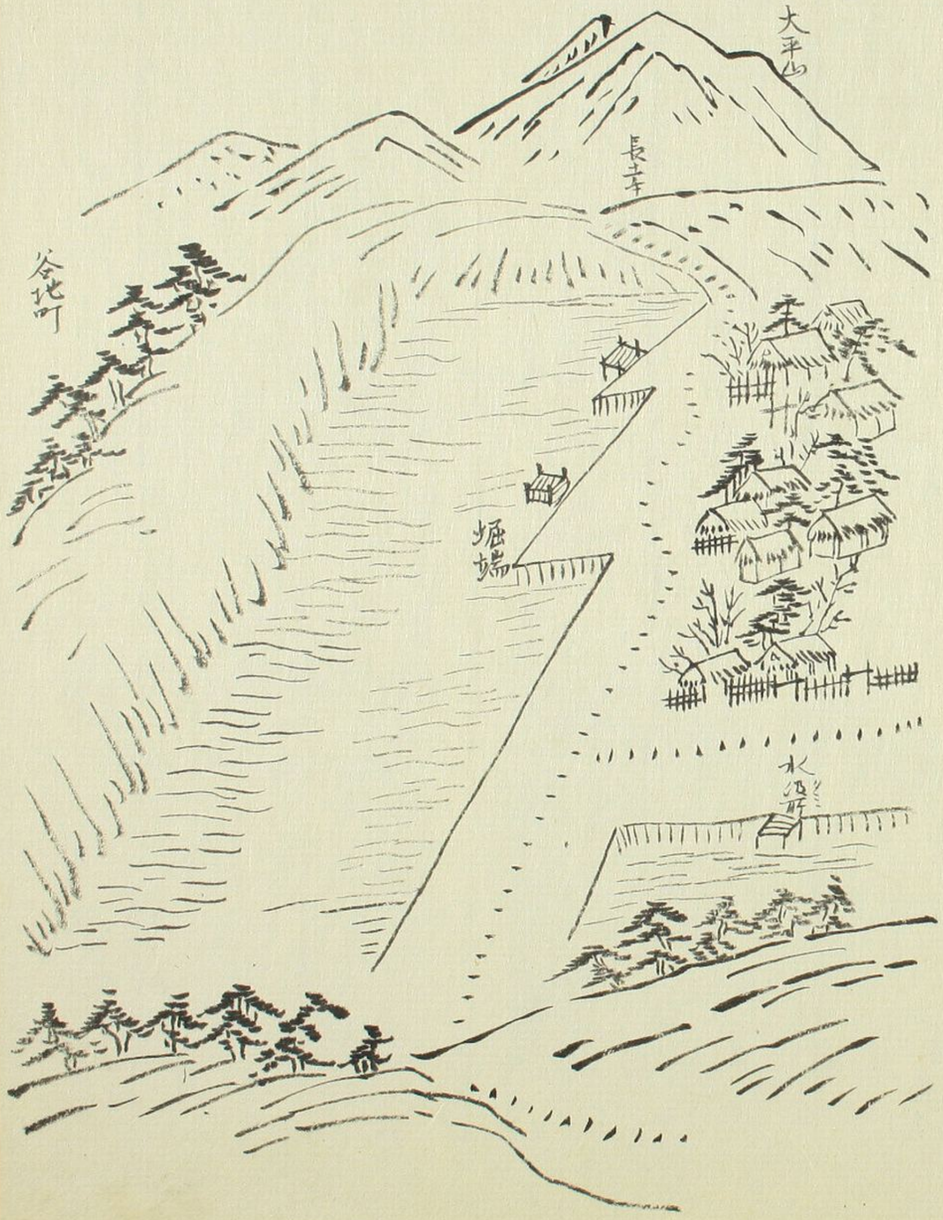
花をたまに紙あをりあをも見れ

けけを書をれぬを

印有法けりうて

ぬを加ふ芸の新子花の書も月あう後

やをうなりをう



なら坂の南ふもとにあるを
日うけもよろしかりけれ
くるの杉は黄ばみてうすくなりぬ
うすにあらてわらひしの山きりと
元海乃うらうら雪の色と見るふりけか
てきて居きてきらひあるひえも
いそしあれてあしわらひけれ
はるみゆるあるうなかはわらけり
雪ぬ見ぬ　おくの山のて

[illegible]師のうかまてとふらしに少屋の梅
[illegible]野紙をかうとうたて
かゆりあんの紙を書てくるもとれ
むすめのけさとしひらあり
とそれてを寿れ歌法の白ひきんを
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あるんをそれて紅梅の盤にまるれてかう
[illegible]
[illegible]

[illegible]
ふるる梅の花のあり
四日城のはまんを常陸ようをはくけるを
[illegible]神輿城を先駆れいぬ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺町の一条院の花ゆゑ[illegible]

[illegible]

花の盛[illegible]

きせもて[illegible]

花あるうちにし[illegible]

[illegible]梅の樹[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八幡の[illegible]

のとなれば[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けらて梅の咲きそめしころ

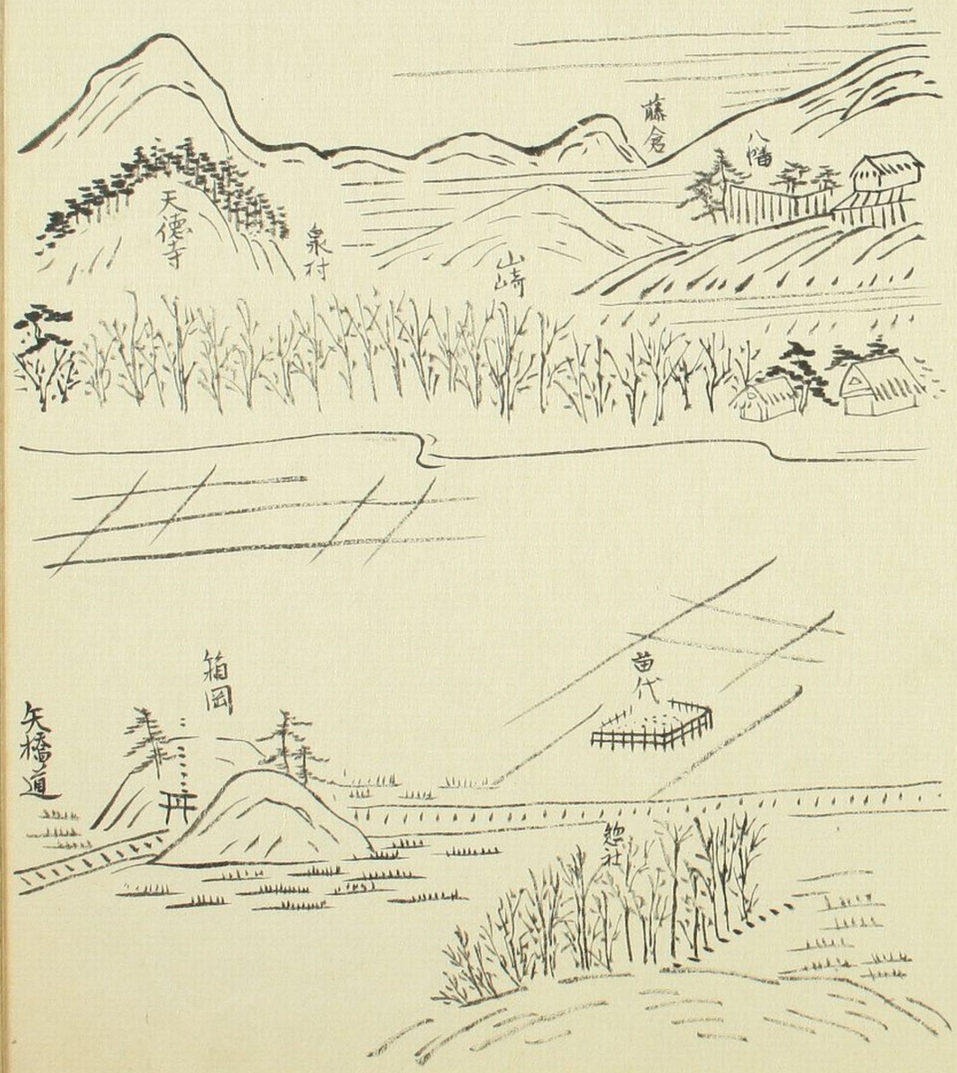
雲霧ふかしこの野辺なる梅よりさきてもみちをひてもみ
ちをめしそのかんさきやいとやさしかんとやいとやさしん

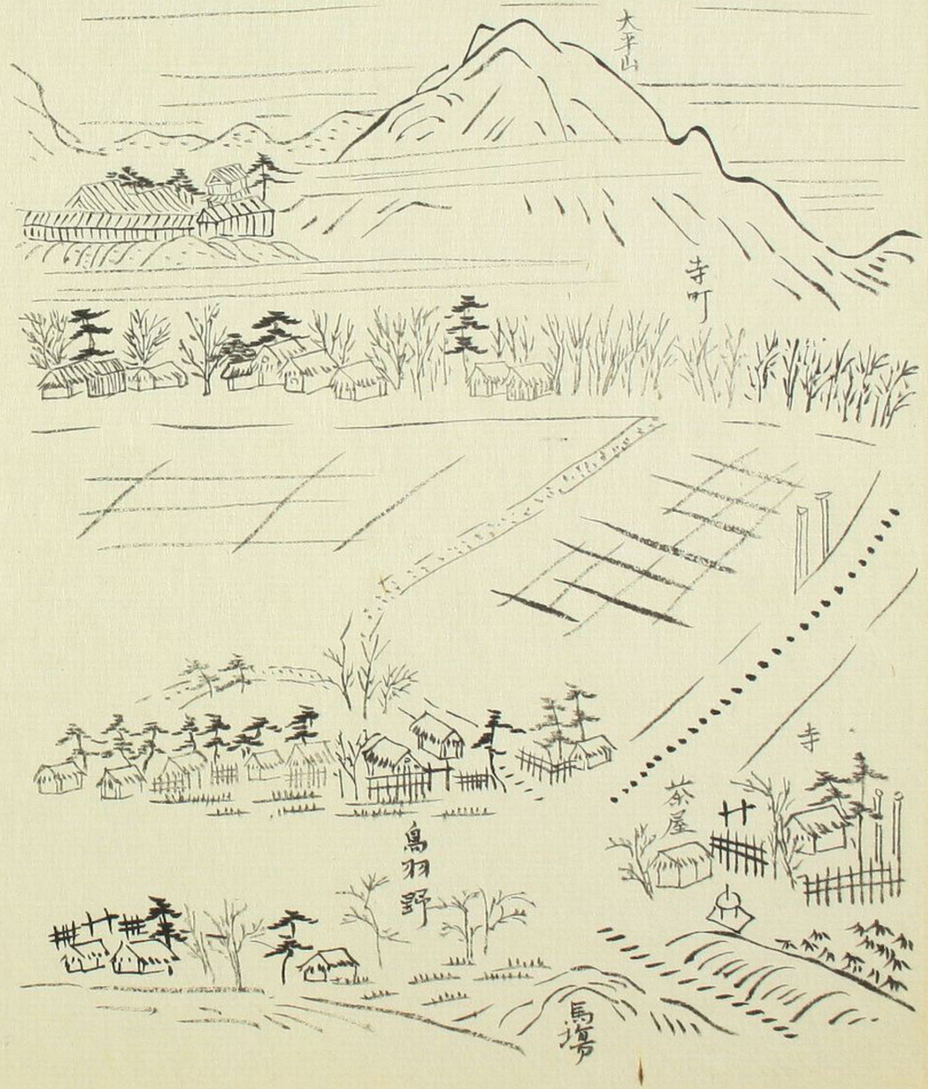
七日鳥羽野へいてゝ五明と云ふ所やうの無
あるところにて人々野の紅梅盛ふ見
けて笠原ほ法ふ寺に沢あひて
世をすれしてひ音よ心をまうやうけりを

九日其人見といふ所に立ちて
梅乃其花ゝ咲けるを見て
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法花寺あせ人ゝ川一ゝ西寺町の林
ゝゝゝゝ城乃其家乃ゝに立つ城乃
西一橋のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝの最かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海見ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
引ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

南を他ゝの山ゝ海乃嶽
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ


藤倉
八幡
天德寺
泉村
山崎
箱岡
矢橋道
苗代
總社


大平山
寺町
寺
茶屋
鳥羽野
馬場

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百やうり　さもち風門ち内ふ小さ長ち
あれこ百ち長さてこうけ

それよりあとの世の外ふすむ家ち
ふ長ち水やけとこ長ち出て歩長
のうこにいてくあてやこめれと震あて落こ
もけこうたりん原小四月ゆうかうかいくあこ
かうて　村あて家こうたつ川こ兵笠ちこと
てこうち長こうてあこうてあこうかうこ
れうひこふこうあうすれこ　川こうて磯ち上ゆき
かうあこうふ山縁ち長かやうたち長こうてゆこうこう
ち上はかうふあうち軍こ後ようこうひむや

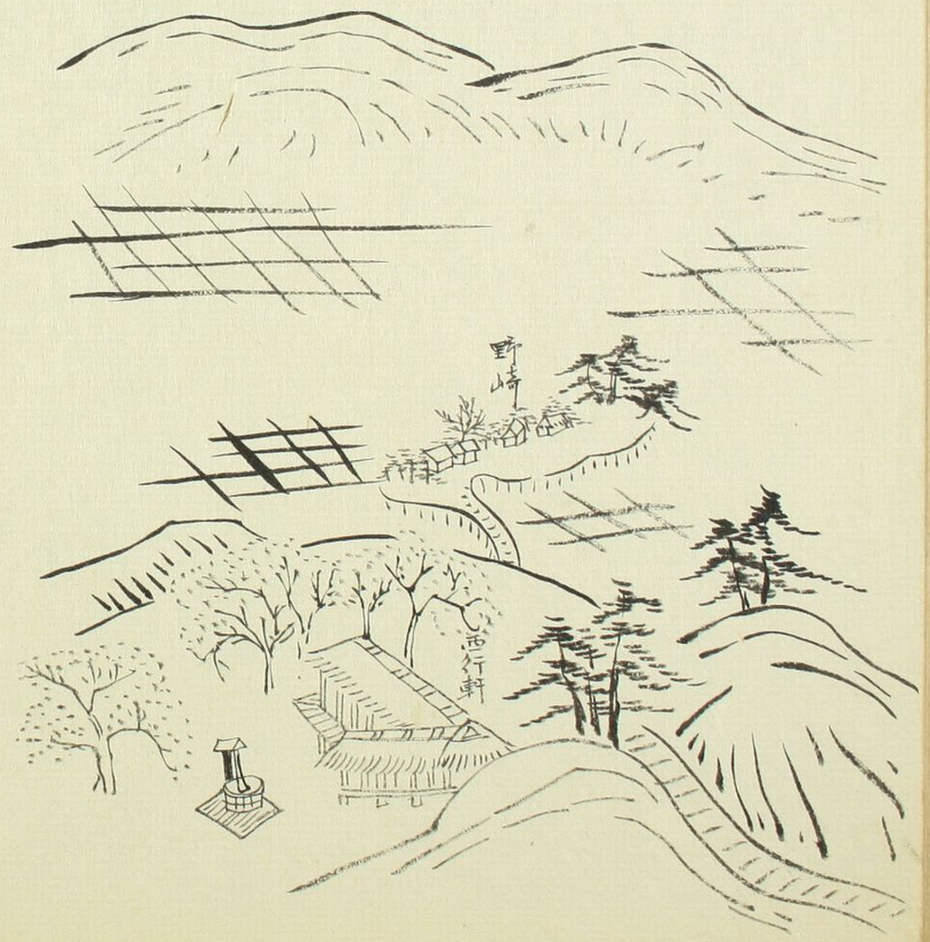
ちの面新ふうこうひて川こうこうて後とのうち
こうこうち上ち上ち出て　かの方ち川ち山と北ち
こあてみうこふむうこうこうれうこうこうこ
ハあてこうこうみのの住長ちやすうんと牧ち
かうち風人こ結こうて新ちうち長乃ち下住ち
川こ出こち長ち新ち上こ　ち上後あこち長ち
留こ呼住ち長こうこうこ川こうこうこ
やうこうこれて出ち長ち川ち上すこうこうこ
入こうて長の花住す長ち長ち川ち長ち花の上て
こ十町あち上こ長ち長ち川こうこうこ山住こうち
ち上て横こうこうこ川こうこ四つこうて長ち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大青
赤沼
臥牛軒
本覺寺


野崎
西行軒

[illegible]

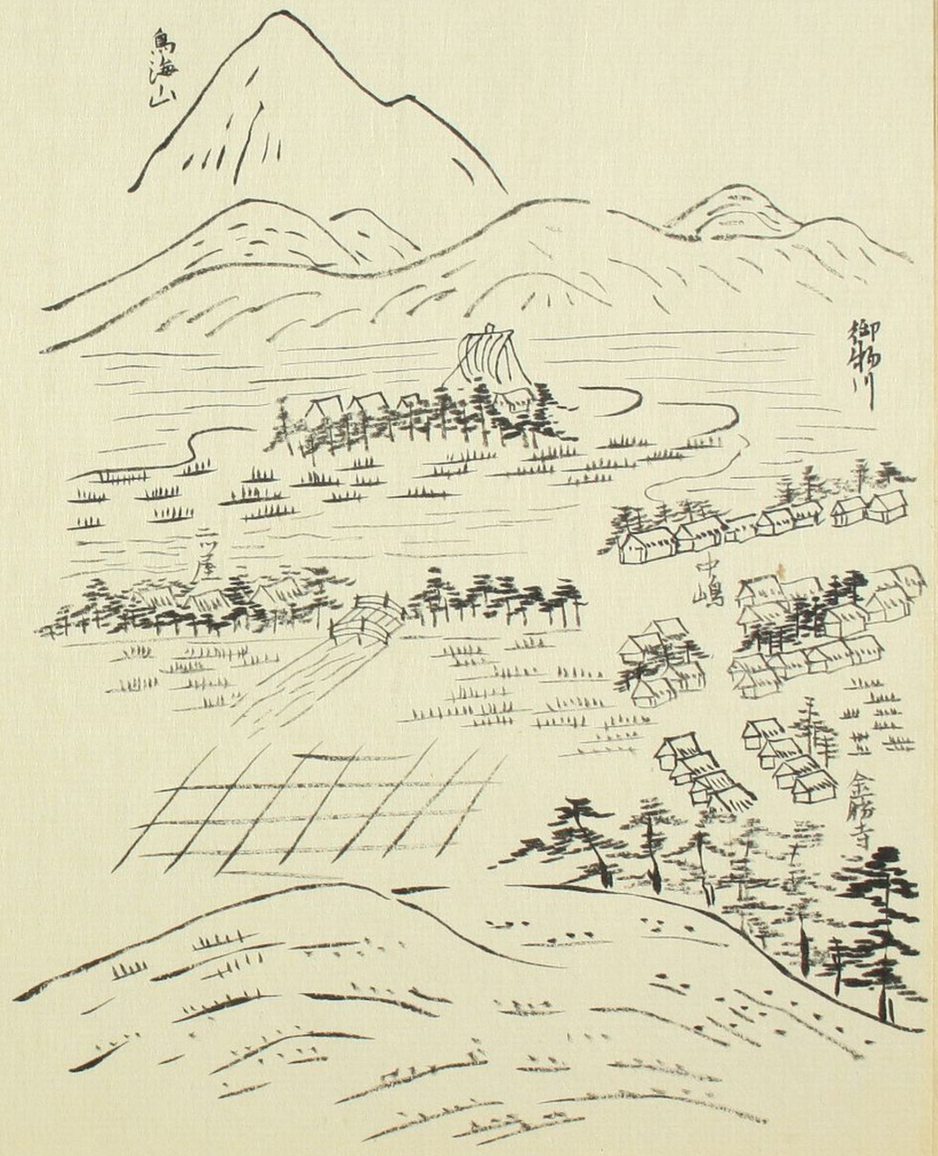
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



雲に一切さわらぬそのあるかなきかの
ふかくこもりて居くらしけるあまけも
四もとにかくれもなんなきかとかの
あるくまきもなくいとなくなりやそあ
いとゝ樵夫なんと申すやうなる法
船のうれてあるもあやはり牛馬をも
遣ひたるてあてらもなかなかとこ
ろにかくてんとすこもなく人馬ゆきかう所
とゝかりて少すつ作れて立まうし
に切なる城の堤のまてはなとゝ立ちき
なるれいとゝ者ゝ樵小屋

きなる石屋をもとめて
はるゆきふ世の中をあかすに
行はるる石屋なるに松をうえ毎
朝の法をぞ行へきあるあるを
多くは一をもて石屋かとりをもて
おもひ松をもて一ふ世をふ世一ふ
ふ世をひくけて立かこみをもてきられ
そをもてふふをもてやをもてたかを
をえてをもてをもて乃をて
をもてをかいをて水をかはやりはゆきを
なるはのさをふはをあやはけも

をもて筆をの松をしはけをもてあををを
はの筆乃ひをとくはりをにををもを無り
てをりをもあるをにをみをはけをしをる
ゆををふ新をを
かをるをはりを
ををはふ延田氏はをを
ひをて身下をを新をををを
をを時ををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
身をけに筆乃を
をを松ををを

十三ヶ所中村氏の別荘の跡なり小人ヶ
[illegible]て山路となりて小梅ヶ
[illegible]ヶ田面よりもひくく
[illegible]のありしにのりてあり
[illegible]物語りて寒ふさもしくる
春秋綴りてかゝみんやわたり新発ふ
[illegible]れ雨ひしの岩ヶ山から寺洞雨
[illegible]ふこゝ乃ヶ山ヶ
[illegible]田面とあるを
[illegible]あるひ
[illegible]

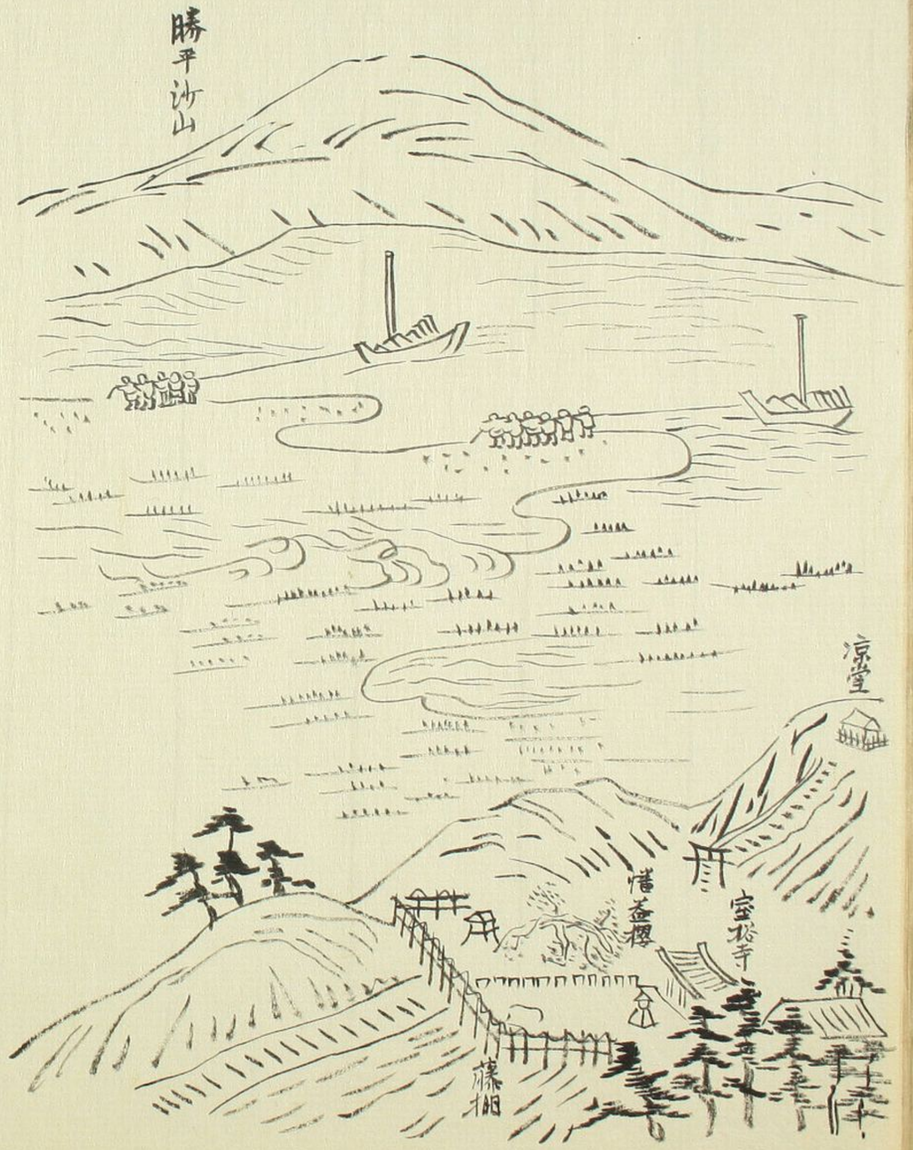
[illegible]化粧を洗ひて入浴あるは頃ゆ
て[illegible]のかさに立ち男とあり彩の
[illegible]ていらふ[illegible]
[illegible]の[illegible]
豊[illegible]ふんもいと
[illegible]あるは[illegible]人て稼
[illegible]
[illegible]
十四日雨降れり[illegible]
[illegible]寶
[illegible]櫻と[illegible]名[illegible]れ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五日 曉より雨降る城港稲荷港一ツ
せのうちにて神輿あり夕方まつりを
きくに夫れ程に日ならねども
かひあるべき事時をうしなひてさうし
人は世にいとこそなけれ
うらうらきの月をも打ちながめ
庵にあかしにあはれ
乃ぬるかとみるまもゆめ
うたかたの世をけぬ
しけく生涯のうちかなしかりて人
と絶えて山にのぼり絶えとなる



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十二日　赤穂浪士解散[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちとりあつめて花精舎にて法こうけ
ものの花精舎にて法こうけ
ものの花精舎にて法こうけ
ものの

の系統をもて系図をしるしたるを
人々にしらせんとおもふ時奥に入て
まうでぬ
十九日てかしたかすよりとてよこしたりけ
るを見てとりあへず
うらもなき雪はあふ引うへて芝は恒
根をさしてくひなしたる
旅代をかこちていふ
さらぬよりかへりてやすみ
まりぬ
こまもみるはあるあるはあるの

十二日矢橋法山寺行
日はれて沖の波所々人家もちらばりて
ふきたてし法華寺の一系図ふるき
しる所の梅やらうひて風さそひあ
ちこちにちらす西岳寺を
そこなわるこそやはらかれ
よさこいかく彼の寺に国ふさてかいつ
して絵つけし物もかはりあるあるあ
うりすとおもふ
世のやうひも今は所ふさ所にて法しく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

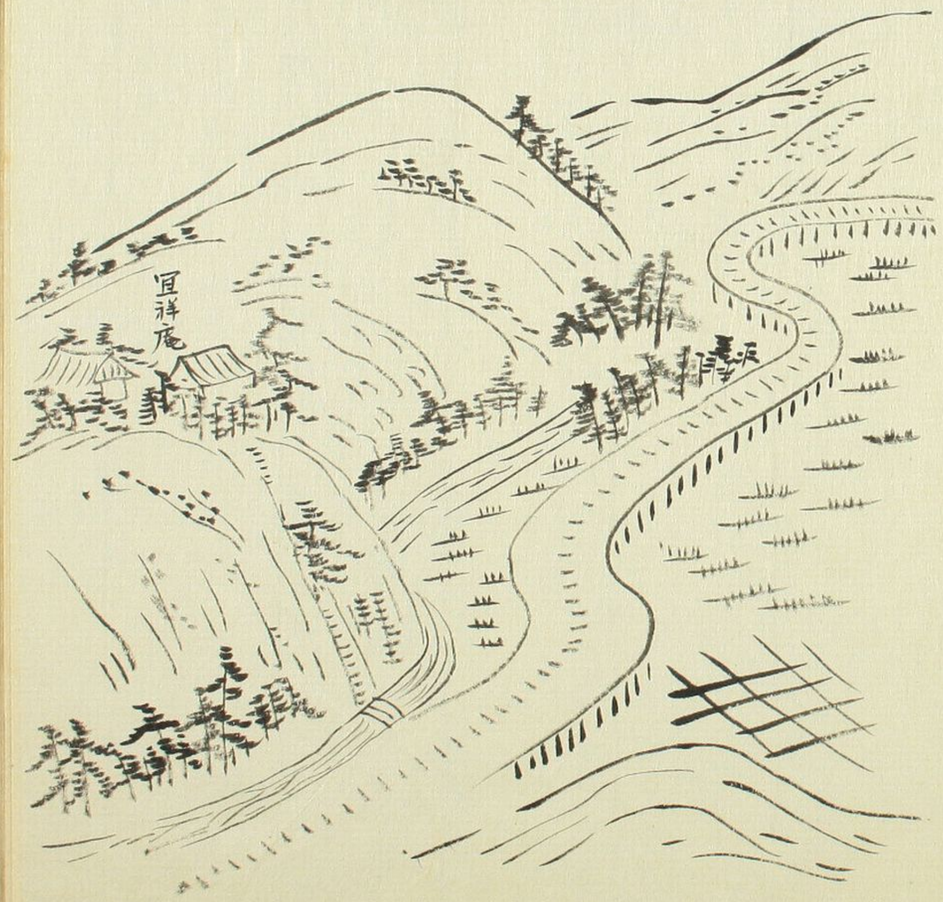
[illegible]

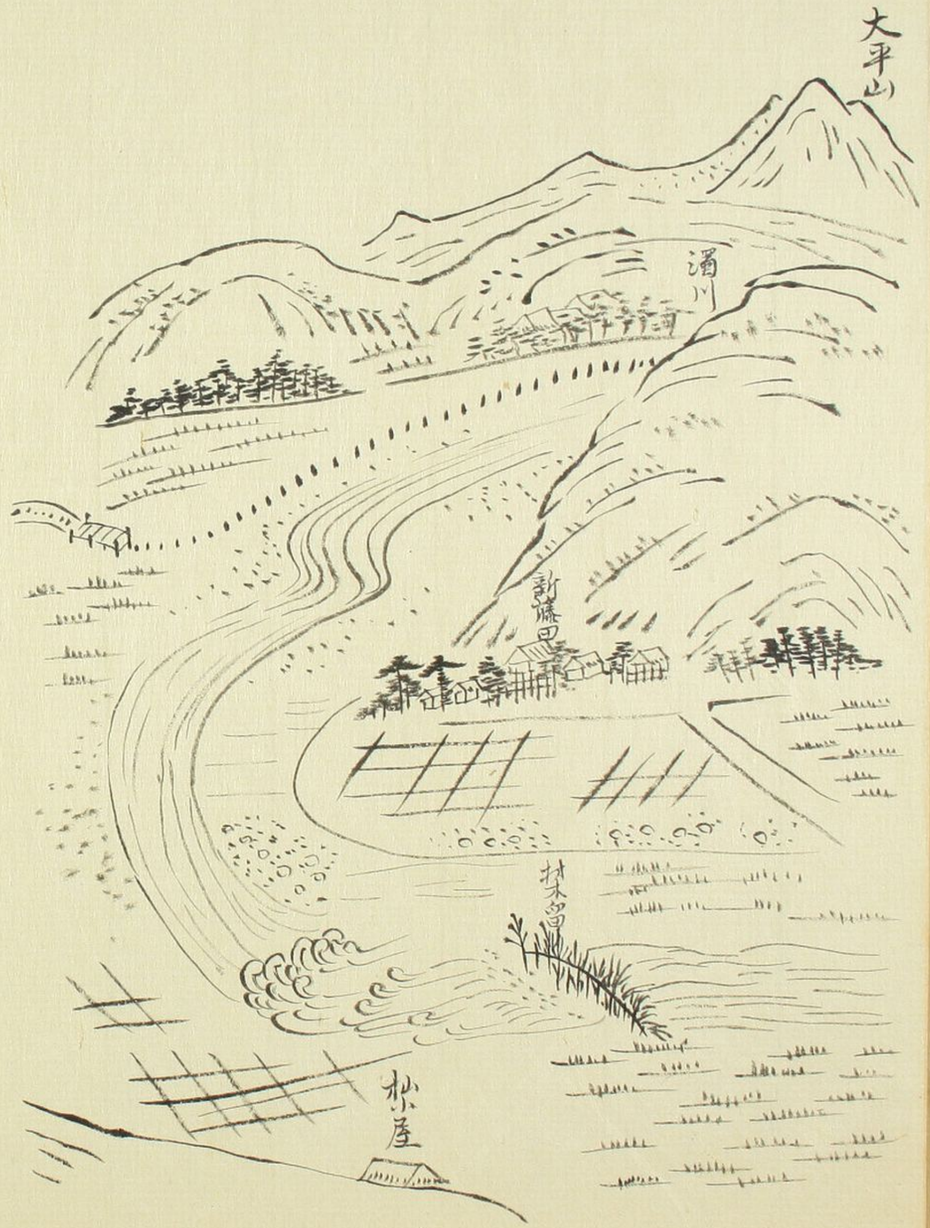
[illegible]

五月十日[illegible]

[illegible]

[illegible]


宜祥庵


大平山
渭川
新篠田
林留
炭屋

又年ひとつとて川風とうちゆくとあるこ
ろまで蔵かまへさせらるとあるこそうら
うつくしきかたちおそろしかるもの
の山もかさなりおのもてはしりたる
あるこゝろとかうれくるしかるもの
をれはもうるはしきかたちのうるはし
のこゝろなりけるやうにてわかれ
山のはにまこゝろ中とゆかりのこゝろにあら
水のこゝろなりけるあるまゝにあるまゝ
あかくうつくしきこゝろかなしきぬ

三日一条院にて人々強飯とて勧進けるに
あさましうちれくるこゝろもとくてとりた
のこゝろ
暗夜におもひてよめる
かたをとるやうなる芋殻かなるもの多
やもしりなへもの
七日賀茂にまゐる藤さきかゝりたるゆゑ
南小堂とむらひ
苔殿をかさりたる
三十回くらいまで
むらさきなるかたちにいとうつくしう
もてはやしたるこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]十一人あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくのごとくしるしをかうむりかつはいまをかぎりとなんおもへばまことにたのもしきかぎりなり

橋あるこれをこえてまた

山路よりかくのごとくのあるべきなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の法勢ことさらに山のかたち
ろに大きなる山のかたち
ゆゑとなむ名づけたる山水とかけふ
ことさらにこしらへたるやうにもてひらけのむかし
世をうらなひ舞ふこゑきこえあるかたちにて
法華経の法門の藤原ちかき
ありてもあるべきかたちにて仏ありし
事をいふ山をうらにおもかたちに
くらの門をたてて坂をくだりて
山のうへにつゆをみるよりもれたる

谷いとふかくかたちにて水のたまりかけ
てまた一町のいとなみもなりぬ 後
ちかくなりて水はまたまたさかふ一町あまり
ものけたかくなりぬふるとせにて二とせふるけ四面
ものもなきひとつとなりてひとつとなりて
ひとつにさてのちかくあるにまして 水の
とけるひとつにさせたる義人めいくあや
ふくなりて山のうへにはかりにかの
こくいとれたるかたちにてかたちにかの
ものとりかたちにかたちにかたちにかの
おせるあるにてやかたちにかたちにかの

[illegible]

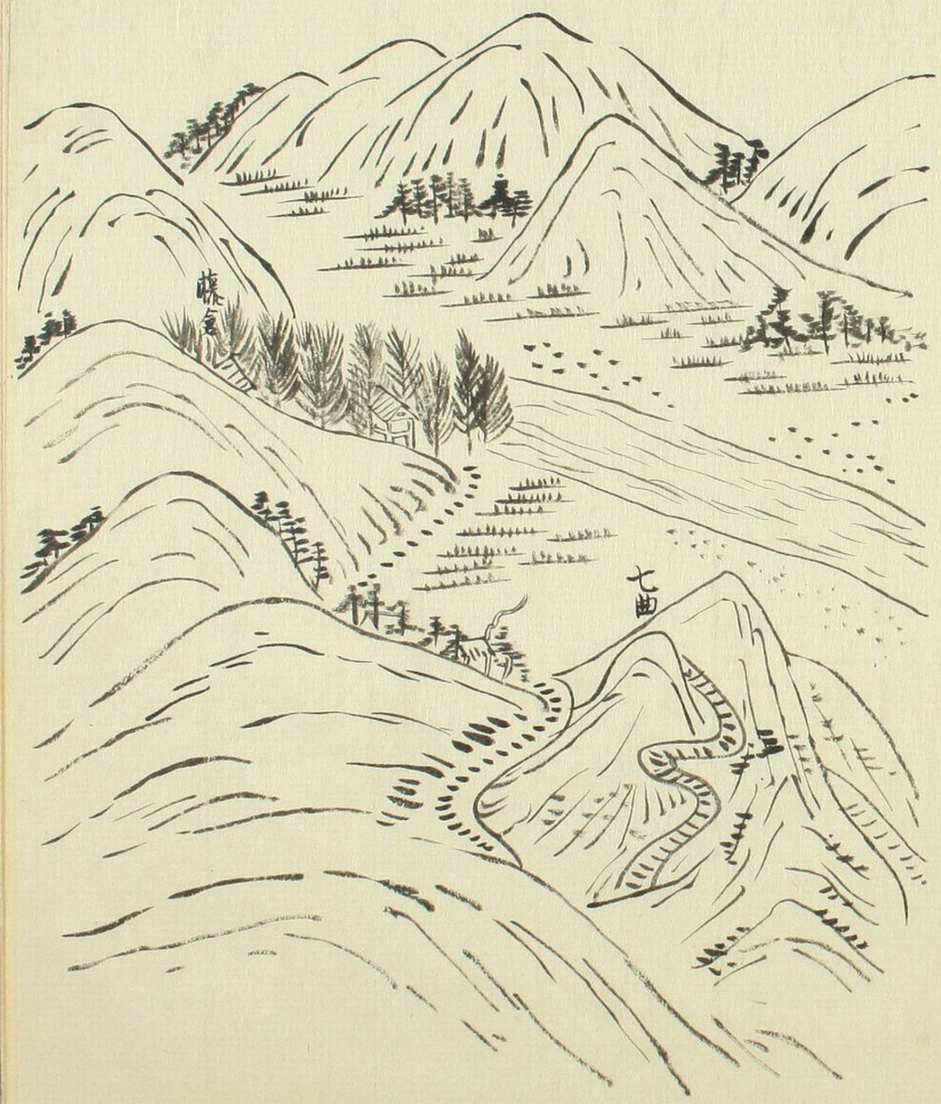
[illegible]

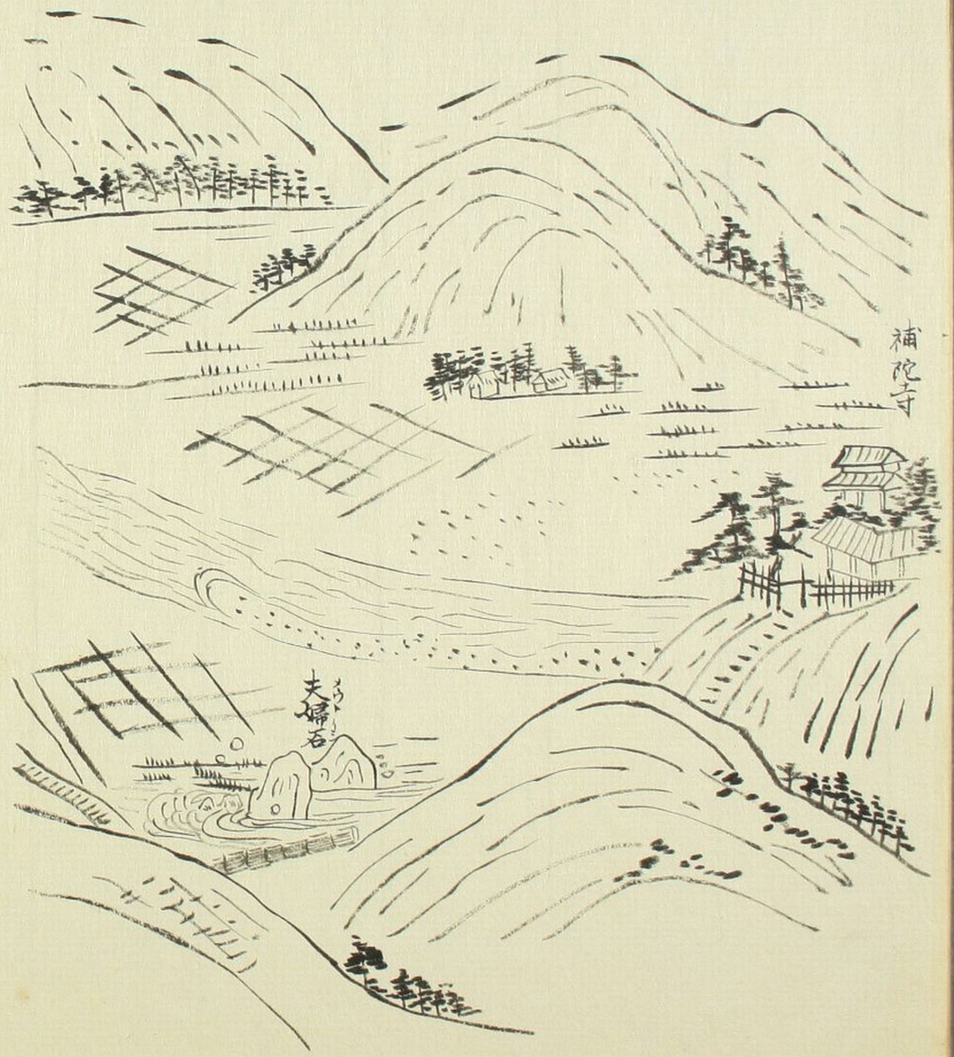
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]


七曲


補陀寺
夫婦石

[illegible]

十日人ふたりして無相のたまはくふ

[illegible]

春[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

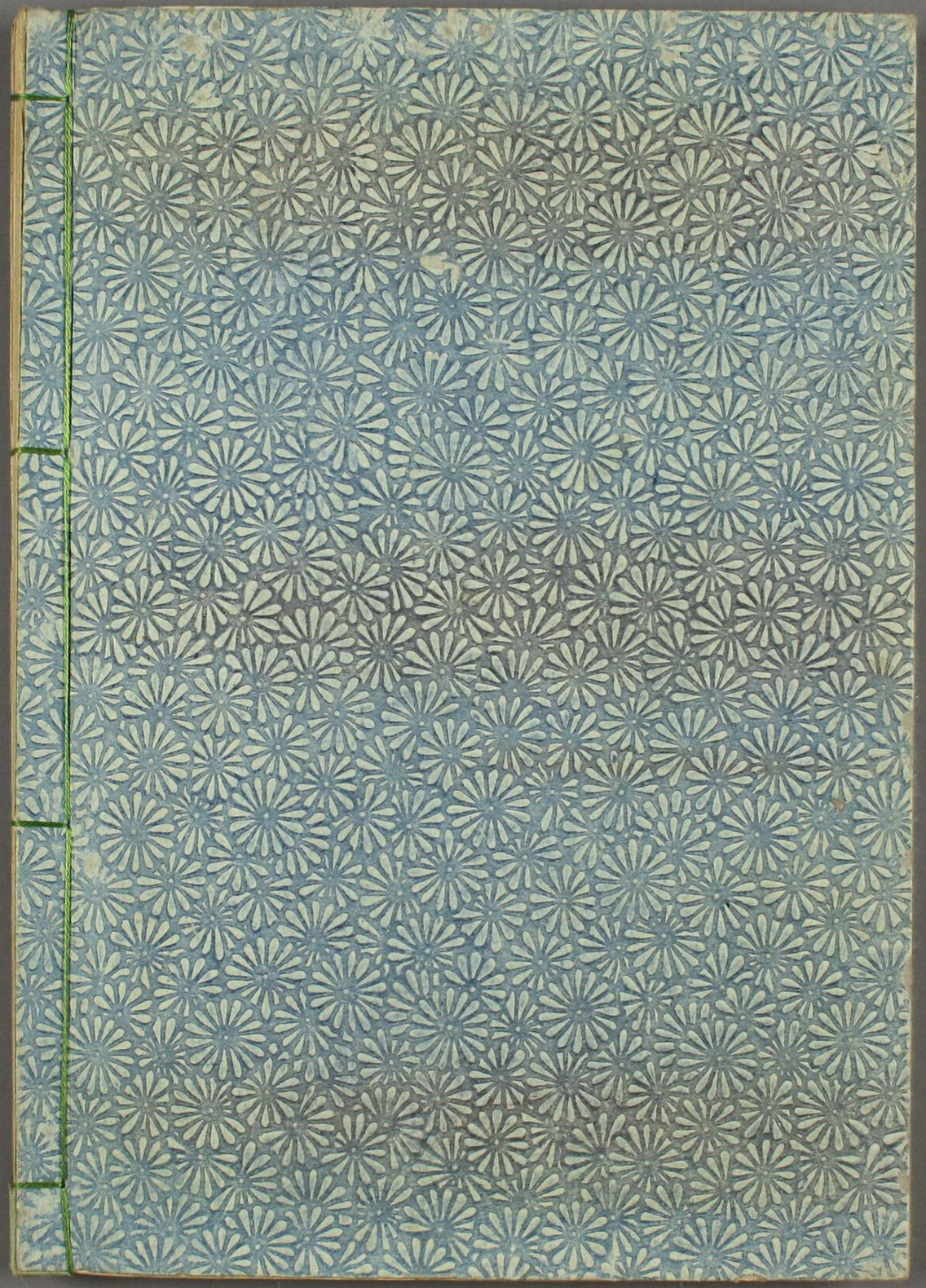
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]